

意匠×一生×一笑×一升＝一匠

意匠委員会 委員長

野田 一隆 氏

(所属：日本たばこ産業株式会社)



interview

自己紹介

知財歴7年以上、弁理士、中小企業診断士
入社は研究職→本社スタッフ→製造（エンジニア）→営業→現在
JIPA歴は4年になります。順調にステップアップして、今年から委員長になりました。
体を動かすことが好きで、野球、釣り、ゴルフ、ボウリング、マラソン、キックボクシングなどいろいろやりましたが、結局ジョギングと筋トレが残りました。最近、ピックルボールなるものも経験しました。（みなさん、ご存じですか？）

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

毎年3つの小委員会を編成し、それぞれの小委員会が以下を担当しています。

- ①外国を中心にパブコメや意見発信、国際会合に委員を派遣する小委員会
- ②意匠実務や国内外の判例などについて調査研究を行い、発表する小委員会
- ③国内を中心にパブコメやJPO等への意見発信、調査研究を行う小委員会

意匠委員会は、クリアランス→出願権利化→権利活用と全ての領域が対象です。毎年新しい小委員会を編成後、幅広く検討し研究テーマを設定しています。また、小委員会横断のワーキンググループを作り対応する場合があります。これまでに、仮想空間や生成AIに関してWGを作って検討しました。

外部との交流も積極的に行います。弁理士会や特許庁との意見交換会は毎年複数回行っており、多い年には特許庁と10回以上意見交換しました。海外への委員派遣も積極的に行っており、外国で行われる国際会合（ハーグ作業部会、ID5）に派遣しています。2024年には、サウジアラビア リヤドにて意匠法条約（DLT）外交会議があり、条約締結の場にも派遣しました。

その他、研修や研究会への参加、他団体との意見交換等、意匠実務の様々な課題・議論に触れることができます。いずれも、企業の目線からの提言や意匠委員会ならではの成果を目指して活動しています。

Q 委員会の特長／魅力は？

●意匠の話ができること

決して怪しい意味ではありませんw

企業では、特許・意匠もしくは商標・意匠と兼務の場合が多いのではないのでしょうか。そのため、社内に意匠について聞ける人がいない、議論できないといったことはありませんか。

安心してください！ここにいますよ！！

委員会には、多様な業界から様々な経歴のメンバーが、ベテランから新任まで参加しています。意匠の話ができる／相談できる環境で、1人で抱えている意匠の悩みも、委員会で相談すれば、とるにたらないことと笑い飛ばせることもあるかもしれません。

●委員同士の仲の良さ、活動のしやすさ

とても仲の良い委員会で、委員同士のコミュニケーションも多く、楽しく成長できる場だと思います。あっ、キャラは濃い方が多い気がします。委員会での議論はもちろん、委員会後の懇親会ではテンヤワナンです。。とにかくみんな本当にいい笑顔です。また、web参加可能で、子育て中で時短勤務の方も複数人活躍いただいているのも特徴です。

●意匠を通して産業界に貢献できること

大きな視点の話ですが、国内外に対し提言や意見発信を行い、また企業に役立つ調査研究を行うことで、意匠制度の発展と意匠権の活用促進に貢献しています。

Q 委員会としてのこだわりは？

1つめは、『一生懸命取り組む』です。委員会活動は、個社の通常業務にプラスして委員会活動を行います。貴重な時間を使いますので、個人の成長にも研究成果にもプラスになるように、一生懸命取り組むことが大事だと思いますし、みなさん実践してくれています。

2つめは、『笑顔』です。意匠委員会は、正直ちょっと忙しいです。ですが、ただ忙しいだけにはしたくありません。そこで、訪問した個社の展示室等は“意匠”委員会として積極的に見学させてもらい、懇親会や宿泊など、楽しい瞬間・笑顔になる瞬間を持つようにしています。

意匠について、一生懸命考え、ともに笑い、息抜きに懇親会やって、専門性（匠）を高めていけるような委員会を目指しています。